

07.06 「基本計画」 『箕面らしさ』

政策 16 農業・農地 施策 27 農業・農地 越智さんから

## 提言シート 『自然環境の保全 農業・農地』

### 1. 目指す姿

- ・農業後継者の育成と税優遇措置のある農業体験農園の拡大化で補完し、林業では間伐支援を行います。
- ・地産地消を推進し、食料自給率の向上を図ります。

### 2. 指 標

農地面積 220ha (下記市街化調整区域内及び区域外の合計) の維持  
市街化調整区域内の農地面積；

2002(H14)年 114 ha 2007(H19)年 114 ha 2020年 114 ha

市街化調整区域外の農地面積(生産緑地指定面積)；

2002(H14)年；86 ha 2007(H19)年；74 ha 2020年 86 ha

食料自給率 全国平均 39%を農業再生・地産地消で 60%を目指します  
農林業従事者の満足度(率)を向上します。

農業祭参加数；

2002(H14)年；4,000人 2007(H19)年；2,500人 2020年 6,000人

水源かん養林、土砂流出防備林、保険保安林 各面積；

2002(H14)年； ha 2007(H19)年； ha 2020年 ha

### 3. 現状と課題

- ・農産物の生産 Cost の削減検討
- ・農産物の野生生物からの被害削減；
- ・止々呂美や山麓付近のイノシシ、シカなどの農作物被害が増えており、防除対策の推進。『被害管理』との調和を図る必要がある。
- ・止々呂美地区；皇帝化と農業人口減少により、間伐が十分にできておらず、イノシシのたけのこ被害甚大。2008年2月に施行「鳥獣被害防止特措法」鳥獣捕獲、防護策設置に 地方交付税拡充され財政支援開始されたが、まだ不十分な状況。シカも同様の被害、防護柵が人の丈では低すぎる。
- ・全国レベル；(農水省調査)1990年度被害農産物12万トンが98年度46万トン06年度36.6万トンで、被害額も99年度から06年度横ばい118億円～135億円 イノシシ、シカ、サルが約9割。被害要因は 農村地域の過疎化、高齢化で 餌場や暮れ屋になる耕作放棄地が増えたこと、暖冬傾向と小雪化で生息域が拡大。(国土全体の二ホンシカ生息地78年度24% 03年

度 42%、イノシシ、サルも同様の傾向)

猟銃免許者 98 年度 43 万人 02 年度 21 万人 狩猟捕獲数も一因ん

#### 4、取組・役割分担

##### (1) 市民等が取り組むこと

農林業の再生 例；農業体験農園を事業とする継続従事者メンバー結成

NPO 例；菜の花プロジェクト、箕面の山と自然の保全活動団体 14 団体他

間伐・清掃作業 支援

##### (2) 市民等・行政が協働して取り組むこと

・ JA 北大阪、A-COOP、箕面の山と自然の保全活動団体 と行政による 地産地消の推進。小中学校給食への「箕面米」安定供給担保し 80%目標化、野菜、果物も暫時追加 朝市街頭売り場所；市道、府道、国道使用許可取得 支援、朝市、即売場所便宜支援

例；茨木地産地消「美山の郷」(野業事業組合) JA 兵庫六甲の街頭販売

・ 農業体験農園；箕面農地(220ha)の市からの積極的推進啓発。08 年から農水省が関西圏でも導入推進中。市民農園(貸農園)の次のステップとして「農業体験農園」を位置つける(農地所者の納税猶予継続可能)。

・ 「鳥獣被害対策実施隊」の定期活動と 改正鳥獣保護法(99 年)・鳥獣被害防止特措法の農林業被害者への支援業務、防護策・新設補強への資金支援

・ 農林業後継者育成の為に 農地確保「市街化調整区域」の部分的拡大。

例；農業体験農園の導入啓発。実施中の田植え、芋掘体験の応用拡大。

・ 間伐作業への広域支援の橋渡し

#### 6. まちづくりの効果

・ 森林・農地が確保・再生することにより、「二酸化酸素吸収」、「表面侵食の防止」や「集中豪雨時の洪水の緩和」などの働きもあり、野生生物も保護され、景勝地として景観保持に繋がります。